

## 19 キャリア教育

### I 本県が目指すキャリア教育

#### 今の学びと将来をつなぐキャリア教育

##### キャリア教育とは

- 「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と位置付けられています。
- 「キャリア」の語源は「轍<sup>わだち</sup>」です。キャリア教育では、子供たちが今学んでいることの積み重ねを、将来に向けての轍にしていこうとしています。

##### Q なぜ、キャリア教育が必要なのですか？

###### ■ 子供たちの現状は（学力調査等の結果から）

「改善傾向にある」が、「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていくという学力には課題がある。」

###### ■ 将来との関連性の見えぬまま学んだ「知」は

受験終了後に剥落する危険性がある。

文部科学省「科学技術に関する意識調査」(2001)

###### ■ 子供が漕ぎ出す世の中は

「変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきた」いる。

###### ■ そこでキャリア教育

- 「各教科等での学びが、一人一人のキャリア形成やよりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にすることが必要になる。」
- 「一人一人の可能性を引き出して豊かな人生を実現し、個々のキャリア形成を促し、社会の活力につなげていくことが、社会からも強く求められている。」

「 」内は中央教育審議会答申（平成28年12月21日） 太字は長野県教育委員会

#### キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」

「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、以下の四つの能力に整理

人間関係形成・社会形成能力	多様な他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力
自己理解・自己管理能力	自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力
課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

四つの能力は、それぞれ独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあります。特に順序があるものではなく、また、これらの能力を全てのものが同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではないです。

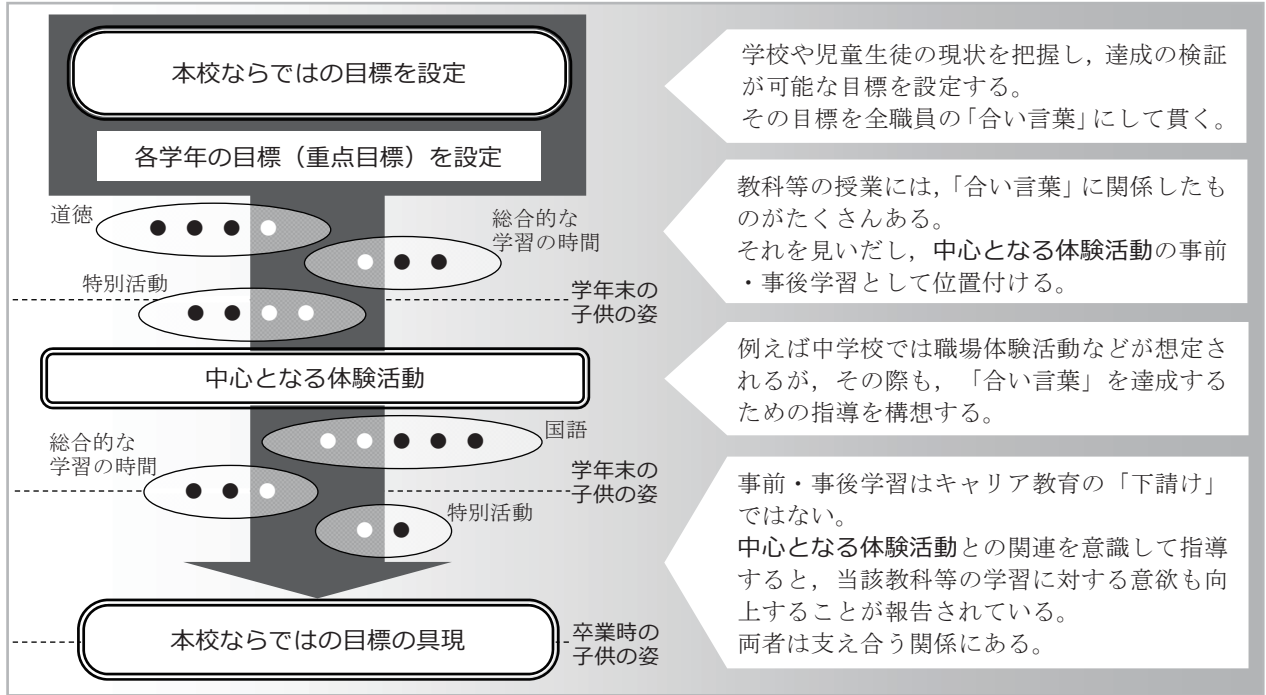
### II キャリア教育を進めていくために

1-①【学校の計画】目標設定は、自校の特徴に即し「基礎的・汎用的能力」を参考に焦点化

1-②【学校の計画】目標設定は、以下の5点に留意

- 具体的に・焦点化して 焦点化することで、全職員が意識して取り組むための「合い言葉」になる
- 測定・検証可能な言葉で 「〇〇ができるようになる」など、目指すべき姿を具体化した末尾にする
- 頑張れば達成できるレベルで 全体目標を受け、学年間のつながりに留意しつつ学年目標を設定する
- 現実に即して 「この地域の学校ならではの」「この子供たちだから」という視点で考える
- いつまでに達成するのかを明確にして 「卒業までに」「学年末の3月までに」など

1-③【学校の計画】①目標を設定し ②中心となる体験活動を据え ③事前・事後学習でつなぐ



2【全体への指導】教育課程全体を通じて（教科等の授業においても）目標の達成を

Q 教科等の授業の中でキャリア教育も行うのですか？

- 教科等の授業でねらうのは、あくまで、その教科等の目標です。
- 「キャリア教育の視点」から、教科等の授業をしてみる。
- そして単元（題材）の内容や授業展開の中に、キャリア教育としての価値が浮かび上がってくる場合に、その価値を見いだし、それを意識して指導する。
- それは「余計なもの」ではなく、子供が教科学習の意義を実感できる授業につながる。

3-①【個別の支援】園・学校段階の発達段階を踏まえた声かけ働きかけを

幼稚園・保育所・認定こども園	小学校	中学校	高等学校
<b>生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期</b> ○健康で安全な生活をつくり出す力を養う ○他の人々と親しみ、支え合い関わって生活する ○周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わる ○感性と表現する力の形成	<b>進路の探索・選択に係る基盤形成の時期</b> ○自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ○身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ○夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成	<b>現実的探索と暫定的選択の時期</b> ○肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ○興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ○進路計画の立案と暫定的選択 ○生き方や進路に関する現実的探索	<b>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</b> ○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての勤労観・職業観の確立 ○将来設計の立案と社会的移行の準備 ○進路の現実吟味と試行的参加

3-②【個別の支援】教師の日常的な働きかけや子供の自己評価の蓄積を大切に

- 子供が夢や希望をもてるような教師の語り、子供の夢や希望を発達段階に応じて後押しする声かけ、子供の自己決定を促すための「聞く」、「受け止める」姿勢に心がける。
- 子供が学期末や学年末等を書く自己評価の蓄積や「キャリア・パスポート」などは貴重な学びの履歴である。記述の蓄積により子供自身が学んだことを振り返りながら新たな学習や生活への意欲につなげ、教師が対話的に関わることで自己実現の一助としていく。

4【人とのつながり】地域とつながり、コミュニティスクールの取組などとも連動しながら

- 活力ある社会の実現に向け奮闘する魅力的な地域人材と子供が出会える機会をつくる。